



ありあけ

●発行日 2008年6月1日

●発行 佐賀大学農学部同窓会

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700

●編集 北川 行俊

住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.saga-u.ac.jp/>

佐賀大学卒業式で 〔農学部156人 農学研究科 39人〕に学位記授与



佐賀大学農学部卒業祝賀会が同日の午後、ホテルニューオータニ佐賀で盛大に開催されました。

佐賀大学の学位記授与式が3月24日佐賀市文化会館で行われた。長谷川学長は、学部生と大学院生に学位授与し、「多様な価値観を認め合い、平和な国際社会をつくり上げる主人公になって」とエールを送った。



目次

平成19年度卒業式において学位記授与.....	P 1
退官教官、加藤・小林両先生からのメッセージ	P 2 ~ 4
研究室紹介 (生物環境科学科 作物生態生理学研究室)...	P 5
農学部同窓会の動き	P 6
・キャリアデザイン講座 ・就職ガイダンス ・同窓会長賞の授与	

会員の広場.....	P 7 ~ 9
・企業体験を農業に生かす (S38・園芸学 高田 薫氏) ・春の花だより (S49・園芸学 堤 泰子さん)	
会員の情報 (博士号取得)	P 9
・北島秀明氏・平山 伸氏・小林義周氏	
支部だより.....	P 10
事務局から.....	P 10
編集後記.....	P 10

退官教官メッセージ



佐賀大学農学部を 退職するにあたって

加藤 富民雄

佐賀大学農学部同窓生の皆さんお元気でしょうか？平成20年3月31日をもって定年退職する生命機能科学科の加藤です。昭和51年3月に佐賀大学農学部農芸化学科発酵生産学講座に着任してから32年になります。この間私は一貫して微生物を対象とした研究・教育に従事してきました。

研究テーマの一つはDNA組換え技術で重要なⅡ型制限酵素の検索と性状に関する研究です。多くの細菌から制限酵素の分離を試み多くの学生さんがこのテーマに関してくれました。この研究はマレーシアやタイとの国際共同研究としても発展し、学生や教員の国際交流にも役立ちました。

二つ目は微生物の抗酸化作用に関する研究で、廃棄物の有効利用と抗酸化物質の分離精製を目的として昭和55年から続けています。この研究にも多くの学生さんが従事し、頑張ってくれました。特にバングラデシュからの留学生二人はこのテーマで博士の学位を取得しました。この研究は応用に関して数社の企業から研究費の援助を頂きました。

三つ目の研究テーマは発酵微生物の育種で、主に醤油酵母、清酒酵母を利用した新製品の製造を目的とした研究です。佐賀県及び佐賀県醤油協業組合との共同研究でバイオリアクターを利用した超淡口醤油の製造システムを完成し、多くの調味料の素材として利用されています。清酒酵母に関しては吟醸酒の香気成分を高生産する多くの変異株を分離しました。また、肉料理に合う清酒製造のためのリンゴ酸高生産変異株の取得とその生産機構の解明で佐賀県工業技術センターの小金丸和義氏が博士農学の学位を受けられました。

このような研究背景から、法人化した佐賀大学ブランドのお酒を造ったらどうだろうと考え担当理事に相談したのは平成17年のことでした。平成18年の春に実現へむけた具体的な検討が開始されました。私としては大学ブランドということで原料は大学が

提供し、造りは佐賀県の酒造メーカーにお願いするのがよいのではないかと考えました。米は農学部付属資源循環フィールド科学研究センター〔農場〕で作られたヒノヒカリを使用することにし、それに伴って製造するお酒は純米酒にすることが決まりました。そこで我々の研究室で分離した酵母の中から純米酒の製造に適した酵母を選び、窓の梅酒造株式会社に製造を委託することになりました。

次はお酒の名前をどうするかということになり、大学ブランドであるので学内で公募するのがよいだろうと意見が一致しました。生憎公募の期間が夏休みということで学生さんからの応募は少なかったものの100を超える応募があり、選考委員会で検討の結果、「悠々知酔」が一位となり、「遥かなり十五畷」と「佐大銘酒かささぎ楠葉」が二位となりました。悠々知酔とは悠々と酒を飲みながら知の探求に酔うという意味でまさに大学らしいと好評です。一位と



二位の応募者には文化教育学部で作成された徳利と杯が賞品として贈呈されました。瓶のラベルのデザインは佐賀県内で公募し、伊万里在住の女性が一位となり賞金10万円が贈られました。

いよいよ酒造りにかかることになりましたが、この年は高温と台風の塩害で米の出来がよくなく、特別純米酒を造るためには3等米以上でなければならぬことからフィールドセンターにお願いしてなんとか3等米を1トン確保して頂きました。平成18年1月末に酒母を佐賀県工業技術センターの小金丸さんに製造していただき、窓の梅酒造で仕込みを行いました。2月末に新酒が完成し、4合瓶で約1800本の悠々知酔ができました。1本1500円で3月9日に販売を佐賀大学生協で開始しました。マスコミにも取り上げられ予約でほとんど売れてしまい、各学部

の卒業祝賀会などでも飲まれたため5月の連休には完売してしまいました。

今年度は前年の2倍量を製造し、平成20年2月に新宿の高島屋で開催された大学発ブランド品を集めた展示会でも販売されました。今後、卒業式や同窓会などでも飲んでいただいで、「悠々知酔」が佐賀大学ブランドとして造り続けられ、多くの佐賀県の酒造メーカーが競って美味しい「悠々知酔」を製造して頂き地域貢献が益々拡大するよう期待しています。このお酒を造るにあたり、大学法人はもとより卒業生の皆様のご支援があったことを心から感謝しています。

私は4月から別府大学食物バイオ学科で教育・研究を続けることになっていますが、佐賀大学農学部及び同窓会の益々のご発展をお祈りします。



昔、紅顔の美少年(美少女).....の皆様、 今もお変わりないと存じますが

小林 真

私、小林は本年3月をもって佐賀大学農学部を定年退職させていただきました。佐賀大学に赴任して39年5ヶ月の勤務でした。所属研究室は、最初は畜産学、その後は、動物生産生理学、動物生産学、最後には動物資源開発学と3回名前が変わりましたが、研究、教育内容は一貫して畜産学、動物繁殖生理学でした。講義科目は動物生産学(分担)、動物繁殖生理学など、実験実習は、畜産学実験、(分担)農学実験(分担)、生産生物学実験(分担)などでした。沢山の方々に受講していただき、また、全員素晴らしい成績でした。卒論、修論指導は、ここ10年くらい主として家畜生殖細胞の有効利用を目指すということで、家畜・家禽精子卵子の採取方法の改善、デジタルカメラを利用した精子運動性評価法の開発、体外受精方法や凍結精子作成の課題に取り組んできました。これらの研究は技術的に難しいことが多く、私も学生諸君とともに、悩み苦しみながら技術開発にあたってきたことを懐かしく思い出します。

さて、今私の手元に一冊のアルバムがあります。

この中の集合写真は皆様が1年次の農場実習における最初の一回目の時にスタッフの方により撮影されたものです。見本を下に貼っています。写真が小さくて申し訳がないのですが、なにやら、見覚えのある方がおられますね。そうです。白武先生(左側写真2段目右から3人目)と、有馬先生(右側写真上段一番左)です。この写真を当方でスキャン・プリントして希望される方にお分けします。手持ちの写真ですが農学科・生物生産学科は、入学年度が昭和41年から平成3年まで、園芸学科・応用生物学科は昭和43年から平成3年度までです。園芸学科は欠年があり、昭和45-48年度、また、昭和61年度が有りません。一番古い写真はなんと44年前です。多くの卒業生の方々は、現役引退で、悠々自適余裕の毎日を送っておられると思いますが、こういう写真を見ながら、昔を思い出すのもよろしいかと存じます。問い合わせ/連絡先はTEL/FAX0952-26-6036。Mail:sagakobaf@r7.dion.ne.jp。申し込み先は、〒番号840 0027 佐賀市本庄町大字本庄560-7 小林真 宛。必ず封書でお願いします。写真代は無料で

昭和47年度入学 農学科



秋好 池田 井手 今岡 内山 浦橋 奥 北村



古賀 五島 志垣 重田 下堀 白武 鈴木 都津川



立場 田中 中園 中山 光武 安河内 小崎 脇部



徳永 吉岡 松本 小峰 江里口 池田 橋本 百田

昭和48年度入学 農学科



有馬 井口 大里 梶原 佐々木 佐藤 下田



木藤 陣野 杉本 高松 瀧川 寺島 豊釜



中村 法村 萩原 松本 内小野 森川希 森川美



森田 矢野 山口 渡辺 黒石 高津 橋口 馬場

すが、返送用に80円切手を1枚同封してください。
 入学年度とお名前、住所を明記してください。また、
 姓が変わっている方は旧姓も並べて書いてください。
 こういうことをすると、若い卒業生の方からは、老
 人のノスタルジアと笑われそうですが、タイトルに
 ついてもうちょっと書かせて頂くと、「言を寄す全
 盛の紅顔子 憐れむべし半死の白頭の翁 この翁白
 頭真に憐れむべし これ昔紅顔の美少年」。若い方
 に対して、いづれあなた方も必ずこうなるのだよ、
 という警句。皆様のご健康と活躍を祈っています。

フィールドセンターの収穫感謝祭



付属資源循環フィールド科学教育センターでは
 去年11月28日恒例の「収穫感謝祭」を関係者約120
 名の参加をえて盛大に開催されました。

写真は、開会のあいさつをされる尾野喜孝セン
 ター長です。

シリーズ①

研究室紹介

生物環境科学科 作物生態生理学 研究室

本研究室は、文理学部農学専攻に作物学研究室として誕生し、来年還暦を迎える。この間に500名以上の卒業生・修了生を輩出した。歴代の担当教官は田中富太郎、藤井義典、田中典幸、副島増夫、杠政則、窪田文武、益山剛、原田二郎、有馬進、鈴木章弘である。また、海浜台地生物環境研究センターの芝山秀次郎、鄭紹輝の両先生にもご教授頂いた。藤井・田中(典)両



鈴木章弘先生と3年生

先生以来、「根の研究」で名を馳せたが、現在は、マメ科作物の根の研究を一步進めて、根と根粒との関係の解析ならびに根粒の窒素固定能のパワーアップに研究室一丸となって取り組んでいる。この研究は、窒素施肥を減らした健全な作物栽培を実現し、肥料農薬漬から脱却した安全な農業生産とクリーンな地球環境を目指すものである。その他、水稻・甘藷の直播技術開発や佐賀平野特産の「菱」の研究も行っている。さらに、地域貢献として、佐賀城のお濠の風物詩となっていたハスがここ数年で絶滅したことから、佐賀県・佐賀市と共に「佐賀城お濠のハス再生プロジェクト」を立ち上げ、ハス絶滅原因究明と在来ハスの探索・増殖に取り組んでいる。一方、有馬教授が日本作物学会九州支部会長と九州雑



実験中の4年生

草学会長を務め、鈴木准教授、鄭准教授が同会の事務局を担当しており、本研究室が九州の水田作・畑作研究の要となっている。

平成20年度の研究室メンバーは、教員2名、大学院生4名(富永、阿部、山内、趙)、4年生7名(北、佐々木、高木、孫、久野、夫津木、吉田)、3年生6名(池田、工藤、重山、園田、西原、吉郷)、2年生の5名(10月に配属)で留学生を含み計24名で、日々、研鑽を積んでいる。



平成19年度卒業生



研究室の在学生



キャリアデザイン講座

この講座は、大学の新しい試みとして、同窓会との連携のもとに平成17年から開催されております。昨年度の講座は同窓会会員から各学部13名が講師を担当し、1～2年次生の約300名が受講しました。各講義内容についても学生の「キャリアデザイン」（生涯設計を樹て、いかに勉学や部活、ボランティア活動、海外交流などに取組んできたか）の構築に当たり、参考となるものが多く、大学から高い評価を受けています。

昨年度は福岡県農業協同組合中央会の**今岡靖弘さん**（S51年卒・農経、53年修卒）と財団法人日本環境衛生センターの**向中野裕子さん**（H11



キャリアデザイン 今岡靖弘さん

年卒・園芸工学）のお二人に担当してもらいました。

今岡さんは、「修士課程を含む6年間の学生生活と下宿生活そして卓球部などで多くの人と交友ができたことが財産になっ

た」と話されました。また、向中野さんは、「学生生活の中で環境問題に関心を持ち、ドイツに短期留学したことや、その後東京学芸大学の環境教育コースで学んだことなど目的を持って取組んできたことを話され、終りに女子学生には女性が働くことに理解のある男性を探してほしい」と結ばれました。

なお、平成18年の講師は、熊本県庁の**立場久雄さん**（S51年卒・作物学）と佐賀県庁の**村岡実さん**（S46年卒・植物保護）のお二人でした。



キャリアデザイン 向中野裕子さん

就職ガイダンス

就職ガイダンスは、農学部と同窓会の独自の取組みとして平成16年から実施しております。このガイダンスは、就職を前にした3年次生を対象に県内外の企業や官公庁に勤務する同窓会会員が講師となり、「どのような考え方で就職先を選定したか、いつ頃から就職活動を行ってきたか」などを講義するものです。

このガイダンスには、毎年約80名が参加し、学生

から好評を得ております。

昨年は、伊藤ハムに勤務される**吉田知世さん**（H19年卒・動物生産生理学）に担当してもらいました。



就職ガイダンス 吉田知世さん

同窓会長賞の授与

平成18年度から新規卒業生で在学中にスポーツや文化活動等で顕著な功績のあった者などを対象に農学部同窓会長賞を授与する規定を新設しました。19年度は農学部長から「該当者なし」と推せんがありませんでした。

なお、平成18年度の受賞者は佐賀大学準硬式野球部員として、全国大会出場や全日を選択チームに選ばれるなど、活躍した**山下幸太さん**（H19卒・生物生産科）でした。

会員の広場

企業体験を農業に生かす

大分県 中津市 高田 薫
(S38年卒・園芸学)



傍らの女性は、高田さんの奥様（旧姓 松隈義子さん、S41年卒・植物保護）です

私は、専業果樹農家の長男として1939年に大分県中津市に生まれました。主として梨を栽培しており、1歳2ヶ月の時に、新高梨の木をバックに父と写った写真があります。

梨の木の仕立て方が現在と異なるのが写真から分かります。父は、進歩的で、終戦後の中津でいち早く耕耘機を手に入れましたが、もっぱら使うのは私の仕事でした。手押しポンプでの農薬散布は、手を抜くと薬液の出が悪くなり怒鳴られるので大変でした。高校時代は、学校に行く途中に、青果市場に自転車で60kgの梨などを並べての登校でした。果樹栽培から販売まで、父を見ながら成長した私は、大学受験に際し、農学部を選ぶのに躊躇はしませんでした。不知火寮に入れてもらい、先輩達に多大の影響を受けました。特に自動車部の設立に加わった事は、私の進路に大きな影響を与えることになりました。

農学部は45名で、今でも毎年クラス会を各地で行い旧交を温めております。卒業に当たり、就職ということになりましたが、当時は就職難で、自動車部をやっておったのが幸いし、九州三菱ふそうに推薦され入社することになりました。なにも分からないまま建設機械部の販売課に配属されました。それが

ら、商品知識、マーケットリサーチ、販売技法の勉強の毎日でした。2年目から、先輩セールスとの同行でユーザーを訪問し、機械受注のノウハウを学びました。その後に親会社の三菱重工とアメリカのキャタピラー社が新しく合併会社を設立し、全員が新会社に移籍することになった。世界一のキャタピラーの製品や、販売技術は超一流で目を見張るものばかりでした。この後30数年間九州を地盤に販売、のちに管理職に従事し、58歳で定年退職しましたが、この営業経験が、現在非常に役に立っていることは間違いありません。

特に、数回の海外出張でアメリカに行った時に、フィッシャーマンズワーフや、ファーマーズマーケットを見て、日本の農業の将来を予見しました。勤務中は、ウイークエンドファーマーを自負し、勤務地を問わず土日は自宅に帰り、果樹園の作業に、汗を流しました。退職後は、果樹園の経営に全力を挙げましたが30年の空白は大きく、栽培技術も大きく進歩していました。しかし、佐賀大学農学部の後輩が、県の普及センターに数名おり、最新の栽培技術を教えてくれ、大いに助かりました。長年培った販売のノウハウを生かし、市長を招いて「フルーツロード」の命名式を行い、マスコミで大々的に取り上げられ、中津の梨、ぶどうの宣伝に貢献しました。毎年9月にフルーツロード祭りを行っています。

また、梨狩りやぶどう狩りも引き受け、お客様に喜ばれています。農産物も含め、商品は生産者が商品に見合った価格を設定し販売するのが当たり前です。私は、ぶどうや梨にそれぞれ価値に見合った価格を付け、すべて直売所で対面販売をしています。お米も、私の知り合いは二町歩すべてを福岡市内の固定客に直販している人がいます。彼の話聞いてみると、自家製の漬け物をおまけとして固定客を開拓していったそうです。

現在私は、東中津果樹生産組合の事務局長と自治会の役員を



1940年の高田果樹園
父にだかれているのが私です

投稿を

待っています

会員の皆様から、学生時代の思い出、大学や同窓会などに望むこと、近況報告、私の趣味、健康など何でも結構です。1,000字以内で写真を2～3枚添付して事務局まで送ってください。お待ちしております。採用分には、佐賀大学ブランド清酒「悠々知酔」、または、佐賀県産農産物を謝礼としてお送りします。次号の会報発行は本年12月を予定していますので、原稿の切りは本年10月末とします。

引き受け、地域振興にも頑張っています。今年、今評判の「なつしづく」の苗木を植えましたので、5年先が楽しみです。現在梨は、幸水、豊水、菊水、秋麗、あきづき、新高を、ぶどうは、ピオーネ、安芸クイーン、巨峰、藤稔りを生産しています。

人生、還暦からがひと人生、それまで出来なかった果樹栽培を毎日楽しんでます。

最近、日本の食料自給率が40%を下回ったことが、問題になっていますが、これは農業者のまたとないチャンスであり、また輸出国の輸出規制が顕著になり、食料の価格高騰が目前に来ていると私は見えています。もうすでに野菜が値上がりし、追い風が吹き始めているようです。食の安全についてですが、日本では、県の生産流通部で作成した防除暦の遵守で、ある程度の規模以上の農家では問題ないと思います。近所の果樹直売所では、保健所の抜き打ち残留農薬の検査が行われ、いづれも安全が証明されました。日本では禁止された農薬は販売されてないし、県の防除暦通りに使用していれば問題が発生するはずがありません。さて、原油の価格上昇で、農業資材の値段が軒並み上昇し、又加温ハウス用の重油も現在は1リットル90円と昔の3倍になりました。知恵を出して使用量の削減に努力中です。地球温暖化について世界の問題になっていますが、九州の沿岸部で、ぶどうの着色不良や、梨の果実の障害が発生し、梨の産地は、栃木県、福島県へと北上を続けています。その内九州では、マンゴウなどのトロピカルフルーツしか栽培に適さなくなるような気がしています。現在台湾では、梨の花芽が付かないために、花芽の着いた枝を日本から送り接ぎ木して生産しています。

最後に後継者問題についてですが、一言で言えば、若者に魅力ある「職場」にすることが必要と考えます。一緒に農業をしている後継者がいる場合は、ほとんど家族協定が結ばれていますが、後継予定者が他の産業で仕事をしている場合は、その仕事と（収入も含めて）遜色ないことを証明する必要があります。子供達は、言葉では言いませんが、親達の生活ぶりをじっと見えています。シーズン中は、一生懸命働きオフには海外旅行を毎年楽しんでいるのを見て、自分もやるぞーと思っている事は間違いありません。後継者がその気になるまで、夫婦とも健康で、楽しくこの果樹園をさらに育てていきたいと思っています。

春の花だより

佐賀県 鳥栖市 堤 泰子

(S49年卒・園芸学)
佐賀県鹿島農林事務所



ニュースはチューリップの花切り事件の頻発を伝えています。

街のそこそこに、木々が芽吹き、花々が咲き誇り、自然界の命が目覚める春に、花を踏みにじらずにはいられない人がいます。

この季節には、さまざまの門出があり、野山をわたる春の風や、それぞれが比べるもののない美しさに輝く花々の香りに、生きている喜びを実感してほしいと思います。

私は50歳になって、いけばなを始めましたが、「花」はライフワークバランスの平衡を保ってくれます。稽古は、しなやかさには遠い「ため」の技や美の表現力の貧しさにあきれる内容ですが、未知の世界は新鮮です。

いけばなでは、数百年の時を経て、なお、不変のものと、変化していくものが共存しながら、美が探求され続けています。先人のたゆみない修練の結実である「わざ」で活けられた「花」は清廉で深奥な美しさをもって、自然に調和します。

水辺や野山で、凜として、楚々として、季節のめぐりを告げる花や木々に向き合い、その出生を想いながら、活けていくと、ささやかながら、私の前に「花」が生き生きとした美しい姿を現します。

夏目漱石の「草枕」に画かれた春の花々は印象的



です。

「山路を登りながら、こう考えた。

.....どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれて、画が出来る。」で始まりますが、読み進むと、山間の春の自然の中に、山桜、蒲公英、海棠、壺菫、木蓮、木瓜、椿などが画かれています。特に、鏡が池の深山椿の赤い花は鮮烈です。いつか、その椿を活けたいと思っています。

平成20年度佐賀大学入学式



佐賀大学の入学式が4月8日佐賀市文化会館で行われた。農学部は、部学生178人(男67、女111)、大学院生50人(男22、女28人)が新たに本庄キャンパス生活のスタートを切った。

会 員 の 情 報

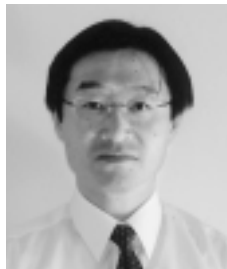
会員の中で、これまで博士号を取得された方を紹介します。



北島 秀明さん
(S60年卒・生物化学)

- ①「生体内防御機構に関するアミノ酸の栄養生理学的な基礎研究」
- ②博士(食品栄養科学)
- ③静岡県立大学
- ④血液中アミノ酸変動は、加齢変化やストレス、鉄欠乏性貧血などの疾患に対して症状評価の指標になる。さらには、生体で必要な栄養素を反映していることを明らかにした。
- ⑤大正製薬株式会社

学位論文名	取得学位
学位授与大学名	学位論文の概要
現勤務先	



平山 伸さん
(S60年卒・生物化学)

- ①「微細藻による澱粉とエタノール生産に関する基礎研究」
- ②博士(農学)
- ③筑波大学
- ④地球温暖化を背景に、穀物より10倍以上増殖性の高い微細藻によるCO₂固定と省エネルギー的エタノール生産に関する技術科開発を実施し、食糧と競合しないエタノール生産形態を提案した。生物学的に新種の微細藻を利用することで、従来の微細藻の細胞破碎・加熱・糖化等の前処理が不要な新たなエタノール生産が可能となった。
- ⑤総合重機メーカー



小林 義周さん
(H2年卒・発酵生産学)

- ①「コウジ酸のアミノ酸誘導体の美白機能活性に関する研究」
- ②博士(農学)
- ③岐阜大学大学院連合農学研究科
- ④代表的なメラニン生成抑制剤であるコウジ酸に、種々のアミノ酸を誘導して得られたコウジ酸のアミノ酸誘導体は、コウジ酸よりも高いメラニンの生成抑制効果を有しており、優れた化粧品素材となりうることを示唆された。
- ⑤中島・松村国際特許事務所

学位取得

された方へ

本稿の3名以外にも多数取得されていると思いますので、該当の方(又はご存知の方)は、氏名、現職名、論文名、学位名、学位取得大学名、論文概要(概要は50字以内で分りやすく)、写真などを事務局までお送りくださるをお願いします。

支部 だより

「佐賀県庁支部先輩を送る会」を開催

佐賀県庁支部では、去る3月19日に佐賀市の「はがくれ荘」において「平成20年3月をもって退職される「先輩を送る会」を開催しました。今回は、川崎重洋さん(S46年卒 作物学)、野口恒治さん(S46年卒 育種学)、福永博樹さん(S46年卒 農業経営経済学)、杠政則さん(S45年卒 作物学)の4名が退職されました。

当日は、先輩方を囲んで会員約100名が参加し、県庁生活の思い出や苦労話などを伺い、また農学部同窓会からご恵送いただいた「県庁支部旗」を披露し、楽しい一時を過ごしました。

先輩の皆様の、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

支部長 内海 修一 (S47年卒・農業経営経済学)



参加者からは、農業経営をする中で、特に、燃料費高騰と集落営農などに議論が集中し、大いに盛り上って有意義な新年会は終わりました。

様々な作目を経営する農業自営者が全員集まるのは難しいが、これを機に参加者が増えることを期待しています。支部長 角田 良正 (S50年卒・農業経営経済学)

佐賀県支部が発足

佐賀県支部の設立総会が、2月1日市内の「はがくれ荘」で30名の参加のもとに開催されました。総会では、発起人代表の高木胖氏が設立までの経過と趣旨を説明し、支部名称、規約及び役員選任などの承認があり、その後、来賓の農学部の野瀬学部長から「農学部の現状と今後の構想」について講演がありました。

懇親会では、野瀬学部長と第1回卒業生を中心に会場いっぱい交流の輪が広がり、大いに賑わった。

主な役員は次の通り。支部長：江原忠彰、副支部長：江口正則、幹事長：林暉宏

北川 行俊 (S37園芸学)

農業自営者の会支部で新年会

農業自営者の会では、1月4日に白武先生と田中欽二先生ご夫妻を迎えて新年会を開催しました。

白武先生からは、アフリカ、アジアなど現地調査をされた中で経済発展の恩恵を受ける一部の人がいる一方で、極貧のスラム街の存在、森林地帯の減少、更には、最近の気象変動による食糧生産の不安定性があり、わが国農業の振興の重要性を強調されました。また、現在も有機農業を実践されている放送大学教授の田中先生からは、食品添加物の問題や耕作放棄田の増加傾向など話題を提供されました。

事務局から

会報の名称は「ありあけ」に

農学部同窓会の「会報」の名称を募集したところ、「はがくれ」「しちめんそう」「ありあけ」「むつごろう」など21点の応募があり、理事会で検討した結果、会員に広く親しめることなどの意見により「ありあけ」と決定しました。

編集後記

本年3月を持ってご退官された加藤先生、小林先生には、お忙しい中、快く寄稿いただきました。感謝いたしますと共に、両先生の今後のご健勝とご活躍をお祈りします。

本号から「研究室紹介」を新設しました。これから順次各研究室の動向などを先生方に執筆していただきます。ご期待下さい。

また、寄稿をいただきました多くの会員の皆様に心から感謝いたします。今後とも会報に対する皆様の素直なご意見と「会員の広場」等への寄稿をよろしくお願いします。(K)